

## つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書（令和6年度）2024

活動日時	月	日	曜日	開始	終了	場所	会員参加数
	11	9	土	8:30	15:30	毛呂山大類の森	4名
活動名称	大類の森プレーパーク春					報告者：吉井 優	

### 1、活動目的

我々つるがしま里山サポートクラブの理事を務める毛呂山町の小澤弘さんが地元毛呂山で、2020年に「里山サポートクラブもろやま」を立ち上げました。鶴ヶ島での経験を活かし、地元の樹林地を整備し、子どもたちに楽しい野外体験を提供し、地元を盛り上げようという趣旨です。

2021年から子ども夢基金の自然体験助成に応募し、大類の森プレーパークを始めました。鶴ヶ島では、2013年から森のプレーパークを開催し、地域の子どもたちに親しまれてきました。これを近隣の市町村にも広まってほしいと願っていました。坂戸市では、「一二三富の会」が、につきい堀米の森プレーパークを開催しています。子ども夢基金の助成による資金調達や子供たちに提供する森の遊びについて我々のノウハウを活かしながら、各地域の特色を取り入れ子どもたちの自然体験が広がっていくのは我々の大切な活動目的です。

### 2、活動内容ほか

今年2度目のプレーパークは、秋の開催となり、綱渡り、ハンモック、ブランコ、ジップライン、バンブーパン、竹細工体験、史跡散策と、多彩なプログラムを提供できました。今年から始めたジップラインは、スリルが高いのに安全で楽しいのですが、会場の隅で活動したためか、目立たずひっそりと、運営されていました。一部の子供には、うけがよく何十回もチャレンジする子もいました。なお、綱渡りも、朝から終了まで数十回チャレンジする子どもたちが数人おりました。子どもの参加者は、前回とほぼ同じ50名の予定に対し33名となり、夢基金の助成基準60%はクリアしましたが、危ないころでした。史跡散策は、毛呂山の歴史を体験できる貴重なプログラムですので、我々町外の人にも興味深い催し物でした。バンブーパンは、80本分パン生地を準備して、これも好きなだけ体験できて大類の森のプレーパークの目玉になってきています。

### 3、評価：

上記でも書きましたが、2021年の初のプレーパークでは、44名の子供が参加していましたが、昨年は、激減しており、今年は少し回復して34名と33名でした。坂戸の綱渡りでは、順番待ちの列ができることが頻繁ですが、いつでもやりたい放題綱渡りができるのが大類の森ですので、参加者の満足度は高いのではないかと思います。

### 4、課題

今回、つるがしま里山クラブからの参加者が3名で、綱渡りと、バンブーパンのお手伝いを行い、毛呂山の方々と交流が深まりました。坂戸でも、高齢化により、スタッフ確保に苦労していましたが、毛呂山も、余裕あるスタッフ数とは言えません。お互いに協力していかないと、イベントが開催できなくなることが心配です。次回も協力よろしくお願いします。

<里山参加会員> 吉井、石樽、石川、

<活動写真>

